

南三陸 復興まちづくり通信

第71号 (令和2年5月発行)



一般社団法人 復興みなさん会

復興みなさん会は平成23年10月から、南三陸町内で東日本大震災の復興支援を継続しています。町内外の皆さまに当会の活動の内容をご理解いただくとともに、復興の最新情報をお伝えすることで、共に地域の再建への道を歩んでいただけるよう『南三陸復興まちづくり通信』を毎月発行しています。



(写真提供=ハマレ歌津)

国道45号復旧工事
歌津中心部で1キロ開通
ハマレのアクセス向上
歌津大橋と寄木橋も同時開通

東日本大震災で被災し、復旧工事が進められていた南三陸町歌津地区の国道45号の一部区間が工事を終え4月8日、供用を開始しました。開通区間は歌津大橋(113m)から歌津中心部の拠点施設である商店街「ハマレ歌津」までの約1キロで、接続する寄木橋も同時に開通。商店街だけでなく、小中学

校や周辺の団地、復興公営住宅などへのアクセスも格段に向上しました。工事期間中は、迂回路に面していなかったため客足が鈍り苦戦していたハマレ商店街の店主たちからは喜びの声が上がっています。

気仙沼方面に向かう残り約700mの区間は、今年度内の完成を目指して工事が続けられます。

南三陸署歌津駐在所新築移転し開所式

震災の津波で被災し、移転再建された南三陸署歌津駐在所が4月1日、業務を開始しました。現地であった開所式は新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、小野寺彰彦署長ら署員11人のみが参加。駐在所の佐々木正弘所長が「地域の安全センターとしての役割を果たせるよう誠心誠意職務にまい進する」と決意を表明しました。

伊里前地区中心部にあった駐在所は津波で流失。新しい駐在所は、歌津総合支所や「平成の森」に近い海拔20メートルの高台に建設され、敷地面積は329平方メートル、建物面積は106平方メートル。佐々木所長と藤田諒祐巡查長が任務に当たります。



看板を掲げる小野寺署長(左)と佐々木所長

伊里前小学校 新体育館で入学式

南三陸町内の小中学校で4月8日、入学式が行われました。伊里前小学校（菊田裕幸校長、児童122人）では、新1年生が2月末に完成したばかりの真新しい体育館で晴れの日を迎えました。マスク姿で入場した16人の新入生は、名前を呼ばれると元気に「はい」と返事をしました。式には在校生は参加せず、来賓の数も制限し、全員マスク着用で座席間隔を広く空けて行われました。新型コロナウイルスの感染拡大によって9日から再び休校となり、授業開始は5月7日からの予定です。



南三陸産材を使った新しい体育館での入学式の様子



山元町「つばめの杜公園管理会」と意見交換会

復興みなさん会のメンバー5人が3月19日、山元町を訪問し、つばめの杜中央公園を管理する「つばめの杜公園管理会」と意見交換をしました。震災復興祈念公園が今秋全面開園するのを見据え、先行事例である同管理会の取り組みを学ぶのが目的です。ワークショップや利用者アンケートなどを実施していることや、隣接する山下二小の児童と協働しての、ごみ拾いや樹木の生育調査、遊具点検などの活動事例など大いに参考になりました。公園も視察しました。

気仙沼合庁で県助成金活動報告会

県の「令和元年度みやぎ地域復興支援助成事業」の活動報告会が2月27日、県気仙沼合同庁舎で開催され、県北2市2町の15の助成団体が活動の成果を発表しました。復興みなさん会からは3人が出席。高田篤会員が、復興公営住宅入居者の引きこもりを防ぐ外出・交流支援事業について説明。①戸倉のマップ作り交流会②町の「モアイバス」を活用した外出支援③「復興まちづくり通信」の発行による情報発信など1年間の取り組みを発表しました。



（復興みなさん会のメンバーによる発表の様子）

あらためて感謝です。自然の恵み豊かな海里山に生んでくれた両親にシカジカらしいのも、自根元にはツブヤクチバメやワカメが見え、その切った海の中にはカジメやワカメが見え、その船からのぞくと、澄みやエルニーニョ現象のせいでしょうか。

【あとがき】桜の花がいたる所で満開の時を迎え、本来なら入学式や入社式でお祝いモードのはずですが、世界は新型コロナウイルスの影響で大変な試練に直面しています。早く終息してほしいと願うばかりです。子供達にはまぶしい春の陽を浴びながら元気に飛び回る姿が似合います。浜では磯の開口になり、ヒジキやフノリが、早く採ってけるとばかりに伸びています。今年の磯はマツモが少なく、いつもの場所にはノロやツノマタ、アカハタなどの海藻がいっぱいでした。これも地球温暖化やエルニーニョ現象のせいでしょうか。

当会は今年度、中日新聞社会事業団「東日本復興支援金」および宮城県共同募金会「みやぎチャレンジプロジェクト」のご支援をいただき活動しています。